

# 協同の発見

きょうどうのはっけん



第271号 2015.6

特集

## 21世紀の協同組合運動① (コミュニティと協同組合)

- ◎労働者協同組合が仕掛ける地域再生の協同組合コミュニティモデル(提案) 津田 直則
- ◎地域でとりくむ再生可能エネルギー事業を事例に、コミュニティ協同組合の可能性と課題を考える 田中 夏子
- ◎再生可能エネルギーと「地益」  
-「プラス」と「マイナス」をシェアする地域のあり方を考える- 藤谷 岳

### ■海外レポート

- ◎【連載第5回】イギリスにおける労働者協同組合の現状-今日的到達点と新たな動き-  
松本 典子(駒澤大学経済学部准教授/協同総研会員)
- ◎フランス 生産協同組合の規定に関する法律(労働者協同組合法/2015年版)  
(1) Loi n°78-763 du 19 juillet 1978 portant statut des sociétés coopératives de production, version consolidée au 15 juin 2015  
島村 博

### ■協同の広場

- ◎「協同労働」の探究~名古屋からの報告~ 橋本 吉広

## ■ 巻頭言

- ダイナミックな協同組合地域社会づくりを構想してみる  
 …… 藤木 千草(ワーカーズ・コレクティブ及び非営利・協同の社会的企業等の活性化支援組織準備会/協同総研理事) 2

## ■ 特集 21世紀の協同組合運動①(コミュニティと協同組合)

- ・ 21世紀の協同組合運動①(コミュニティと協同組合)を特集するにあたって  
 …… 相良 孝雄(協同総研事務局長) 4
- ・ 労働者協同組合が仕掛ける地域再生の協同組合コミュニティモデル(提案)  
 …… 津田 直則(桃山学院名誉教授/協同総研理事) 6
- ・ 地域でとりくむ再生可能エネルギー事業を事例に、コミュニティ協同組合の可能性と課題を考える  
 …… 田中 夏子(協同組合研究者/協同総研理事) 15
- ・ 再生可能エネルギーと「地益」  
 - 「プラス」と「マイナス」をシェアする地域のあり方を考える -  
 …… 藤谷 岳(久留米大学経済学部/協同総研会員) 28

## ■ 海外レポート

- ・ 【連載第5回】イギリスにおける労働者協同組合の現状-今日的到達点と新たな動き-  
 …… 松本 典子(駒澤大学経済学部准教授/協同総研会員) 35
- ・ フランス 生産協同組合の規定に関する法律(労働者協同組合法/2015年版)(1)  
 Loi n° 78-763 du 19 juillet 1978 portant statut des sociétés coopératives de production,  
 version consolidée au 15 juin 2015  
 …… 訳責 協同労働法制化市民会議 / 日本労協連法制化対策部 島村 博 41

## ■ 協同の広場

- 「協同労働」の探究～名古屋からの報告～  
 …… 橋本 吉広(協同総合研究所 常任理事) 55

■ 労協連だより……………田嶋 康利 59

■ 研究所だより……………上平 泰博 61

# 巻頭言

## ダイナミックな協同組合地域社会づくりを 構想してみる

藤木 千草(協同総研理事/ワーカーズ・コレクティブ及び非営利・協同の社会的企業等の活性化支援組織準備会)

1980年のICA(国際協同組合同盟)大会で発表された「レイドロー報告」は、協同組合が西暦2000年に向けて優先的に取り組むべき分野を4つあげた。1つは食糧問題「世界の飢えを満たす協同組合」で、協同組合が生産者と消費者をつなぐ食糧政策を確立し、農業支援などを行うということ。2つ目は雇用問題「生産的労働のための協同組合」で、所有者・経営者・労働者という区別なく、信頼と協同に基づく働き方の労働者協同組合を再生し発展させること。3つ目は消費と流通について「保全者社会のための協同組合」で、消費者協同組合は儉約を強調し浪費を止めさせるということ。4つ目は地域づくり「協同組合地域社会の建設」で、生活におけるさまざまなサービスを提供する多くの協同組合をつくり小さな経済圏をつくること。

ワーカーズ・コレクティブ運動は、主に、第2分野の労働者協同組合の再生発展と第4分野の協同組合地域社会づくりを実践しようということで、生活クラブ生協の組合員が中心となって始まり、全国に広がった。それぞれの地域で、各種の協同組合が連携する活動が展開されている。東京では、生

活クラブ生協に関連する団体が行政区ごとに「地域協議会」を形成し、まちづくり活動をおこなっている。私が所属する一般社団法人ワーカーズ・コレクティブぷろほの工房は、当初からの活動拠点である国分寺市と空き家を借りることのできた府中市の2つの地域協議会に参画している。国分寺市では、生活クラブ生協まち国分寺、NPO法人ワーカーズ風ぐるま(子育て支援・家事援助)、企業組合ワーカーズコレクティブ・ラ・ママン(パン製造販売)、NPO法人健康体操指導ワーカーズ(体操指導)、ワーカーズ・コレクティブぶるうべりい(生協店舗運営)、環境まちづくりNPOエコメッセ国分寺(リサイクルショップ)、たがやす準備会(農業支援)、国分寺・生活者ネットワーク(政治団体)がメンバーで、毎月会議を開き、学習会や調査の企画実施や地域に必要なものをどう作り出すかについて検討している。昨年、3か年計画をつくり、「自然エネルギーを地域で広げる」「石けんの利用を広げる」「食のワーカーズづくり」「多世代の居場所づくり」「ハンディのある人と共に働く」「移動サポートの検討」「社会のありかたについて考える」

「リサイクルの場や情報提供」といったことについて取り組むが、活動の輪を生活クラブ生協の関係だけでなく、もっと広げていくことが課題である。

協同組合地域社会づくりを他の協同組合とも連携してすすめられないだろうか？そこで、国分寺市にどれだけの協同組合があるか調べてみた。まず、農協は「JA東京むさしの」の支店が2つとファーマーズマーケット1か所、生協は「コープみらい」が2店舗、「生活クラブ生協」のデポーが1店舗、東京経済大学生協、宅配では「コープみらい」「生活クラブ生協」に加え、「パルシステム」「東都生協」、三多摩医療生協の国分寺診療所、信用金庫では「多摩信用金庫」の支店3店舗、「西武信用金庫」の支店1店舗、事業協同組合は東京新聞販売事業協同組合の専売所が1か所、そして、ワーカーズ・コープセンター事業団が学童保育7か所、児童館2か所と福祉センターの業務を受託している。それぞれの運営者と利用者を合わせると相当な数になる。先の生活クラブ関連の団体とこれらの団体が連携できるとかなり大きな影響力をもち、地域主体の面白い活動ができるのではないか？

この思いは、2006年に生活クラブ連合会の視察旅行で韓国の原州(ウォンジュ)市を訪問した時から持ち始めている。原州は韓国における協同組合運動の先駆的な地域であり、原州協同組合運動協議会が形成され

ている。構成団体はバルグム信用協同組合・原州生協・尚志大学生協・原州医療生協・原州ハンサルリム生協・カトリック農民会・原州共同育児協同組合ソークプマダン保育園・原州自活貢献機関などで、競合する複数の生協が入って協議会をつくっていることに驚いたのを覚えている。韓国では80年代に協同組合運動が弾圧された後、新しい協同組合運動が起こり、今では農業保護や環境問題、貧困問題、弱者救済などのために協同組合の結束が必要とのことだった。当時、この協議会は事業課題の一つに「新規協同組合設立支援」(ワーカーズ・コレクティブ創設)をあげていたが、どうなっているだろうか？

韓国ではその後、社会的企業育成法(2007年施行)、協同組合基本法(2012年施行)が制定され、現在、社会的経済基本法が制定されようとしている。着々と非営利・協同陣営の活性化、地域経済の力を強くする基盤整備がすすんでいる。翻って日本は、農協法が改定され協同組合の本質が失われようとしている。20数年求め続けているワーカーズ協同組合法も未だに制定されていない。しかし、めげずに協同組合は自身の本質を見失うことなく、連携し合って、様々な暮らしを支えていこうではありませんか。あなたの住むまちにはどんな協同組合がありますか？

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合(ワーカーズコープ)への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。